

2021 年新年の挨拶

JABM 会長
森本技術コンサルティング
森本 耕一郎



新年明けましておめでとうございます。皆様ご健勝で新年をお迎えになったことお喜び申し上げます。これまで BM NEWS 4 月号では、賀詞交歓会での新年のご挨拶を掲載していましたが、今年は、交歓会が感染症対策のため中止になりましたので、改めて本稿でご挨拶を述べさせていただきます。

新型コロナウイルスのパンデミックにより、我々の日常生活が様変わりしました。この原稿を書いている時点で、全国数カ所で二度目の緊急事態宣言が発令され、外出の自粛が強く呼びかけられています。私自身、昨年 3 月以来、仕事はほぼ全てリモートで行わせていただき、埼玉の自宅から都内への往訪ですら年数回に留まりました。一日も早く、この閉塞した状況から解放されることを切に願っています。

昨年は、当協会の活動もパンデミックに大きく影響を受けました。主要な協会行事では、5 月と 9 月の技術例会、5 月からの寺子屋 BM 塾前期分、そして 6 月の軟磁性材料研究会、これらの中止に追い込まれました。また 6 月の総会は、皆様のご理解とご協力を得まして、書面議決で対応させていただきました。

コロナ収束の見通しが立たない中、協会活動の継続を図るため、各種イベントをオンライン化しました。試行錯誤を経て、10 月寺子屋 BM 塾後期分、11 月軟磁性材料研究会、そして 12 月 BM シンポジウムのウェブ上での実施に漕ぎつけることができました。これら行事には、従来のオンラインでの開催を上回る多くの方々にご参加いただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

今年も会員の皆様に向けた協会行事は、少なくともコロナが収束するまでは、ウェブでの開催を継続します。この方式は、多くの方が未経験で何かと戸惑いを感じられたことと思いますが、当協会にとりましても未だ発展途上にあります。これまでに頂いたご意見やご要望を参考に、皆様がより参加しやすい行事運営を目指し改善してまいります。

私は、人と人との対面接触が、新たな人間関係構築のスタートになること、また人の創造性を喚起して新たな技術開発や事業開拓を促すこと

を信じています。従って、パンデミックが収束した際には、従来の対面方式での協会行事を是非復活させたいと望んでいます。その一方で、オンラインには、職場や自宅から気軽に参加でき、移動に係る費用や時間を削減できるという大きなメリットがあります。昨年も、企業の職場あるいは大学の研究室の単位で、それぞれ複数名が同一回線で BM 塾やシンポジウムにご参加いただくという例がありました。このようにウェブの活用は、コロナ後も便利で有効なツールであると考えられます。オンラインとオフラインの両者の良さを考慮し、感染症収束後のイベントの開催方法をどうするか、今後議論を重ねてまいりたいと思います。

その他の協会活動にも触れさせていただきます。協会機関誌 BM NEWS は予定通り年 2 刊の発行ができました。軟磁性材料研究会では、その下部組織である圧粉磁心規格化・標準化部会にてボンド軟磁性材料の試験方法ガイドブックの作成が進捗し、完成への見通しが立ちつつあります。

協会の運営状況の指標をみますと、会員数には大きな変動はなく、また収支の状況も、技術例会や寺子屋 BM 塾など収入が見込めるイベントの開催数が減ったものの、誠に有難いことに、安定的な会費収入により通年で黒字を維持できる見通しです。

さて、ボンド磁石の市場動向ですが、例年のように企画委員会が 2020 年のボンド磁石の生産推計を行いましたので、本誌の BM インフォーメーション「2020 年日本国内及び日系海外のボンド磁石生産・需要動向」を是非ご覧ください。ここでは概況のみ述べますと、中国市場はほぼ復活して元の成長軌道に乗りつつあります。国内市場も年後半、自動車牽引回復基調にありましたが、年末からの所謂コロナ第三波の影響は懸念されるところです。いずれにしても、少し先を見据えれば、我が国を含め世界各国・各地域とも、地球温暖化対策として、2030 年以降それぞれの目標時期までに、新車販売の全てを非ガソリン化する方針で、自動車の電動化を強力に推進しています。これによって、補機用モーターやセンサーの用途でボンド磁石の市場は確実に

に拡大します。しかし一方で、米中対立が我々の事業に及ぼす影響は、米国の政権交代後も一般通商とレアアース供給の二つの面で危惧されます（レアアースに関する話題は、本誌の BM トピックス「2021 年 JABM 新春公開セミナーより」をご参照ください）。

今年最大の関心事は、接種が予定されているワクチンが、コロナ禍のゲームチェンジャーになり得るかどうかでありましょう。併せて我々の業界にとっては、先に述べましたように、近い将来のビジネスチャンスへの期待は大きいものの、周辺情勢にも注意を払わなければならない一年となりそうです。こういった状況の中、当協会は会員の皆様にとって役に立つ情報の発信元になれるよう、引き続き精一杯努力してまいり所存です。本年も本協会へのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2021 年 JABM 新春公開セミナーより

森本耕一郎

ウェブ上での初めての開催となった今年の新春公開セミナーは、「今、レアアースは」のタイトルで元株式会社三徳の小西功様にご講演いただきました。

小西様は 1967 年に三徳金属工業（現 三徳）に入社されて以来、営業と製造現場の二つのお立場でレアアース産業に携わってこられた、正にこの分野の生き字引ともいえる方です。

ご講演のテーマであるレアアースに関しては、各国が地球温暖化対策として、自動車をはじめとする輸送の電動化や再生可能エネルギーの最有力候補である風力発電に取り組んでいる中、高性能なレアアース磁石とその関連製品を武器に、我々は大きなビジネスチャンスに前を前にしています。一方、尖閣問題に端を発したレアアース危機はまだ記憶に新しく、直近では、中国が施行した輸出管理法にレアアースが含まれるかどうか、再び懸念がもたれているところでもあります。

小西様には、これら我々にとって関心の高い話題を含めて、レアアースの課題、可能性、そして国内外の産業の状況などについてご講演いただきました。

当日の講演内容の抜粋を小西様をお願いして掲載いたしますので、今後の事業展開を考える上で是非ご参考にいただければと思います。